

立ち止まって見直そう「国際芸術祭」

第2号
大町の芸術祭
を考える会
2016年3月6日

計画はまだないのに議決は3月15日。しかも議会途中で6,000万円も追加の補正予算を計上！

2月25日、「北アルプス国際芸術祭 信濃大町 食とアートの廻廊」企画概要が公表されましたが、具体的なことはいまだに不透明です。基本計画は北川フラムさんの会社に500万円を委託してあり、3月末までに出来上がるようになっていっています。いずれにしても議論の出発点に立ったところなのに、この3月議会で「食とアートの廻廊実行委員会」に支払う準備予算が平成27年度補正を含め1億1,000万円が計上され、見切り発車しようとしています。

1 地域に根ざした芸術祭を企画しなをしを。

市内に数多くの芸術家があります。地道な文化活動や伝統芸能の活動があります。これを育て、持続できるように支援するのが行政の役割です。「食」も企画に具体性がなくお飾りです。期間限定のレストランでは地域に根付かないのではないのでしょうか。計画を見直し、いったん北川フラムさんを外して、市民の力で企画を練り直しましょう。

2 他の事業を行った場合との経済波及効果の比較を。

「国際芸術祭」の資金は大半を東京の事務所を迂回させるため、地元への経済波及効果は少ないことは明らかです。生活道路の補修や住宅リフォームへの助成など、地元業者に直接投入される事業との比較で検討して、それでも国際芸術祭が良いという理由を示すべきです。

3 競争入札や作品公募（コンペ）を。

1億5千万円が随意契約で北川フラムさん代表の事務所にわたるのは税金の使われ方として疑問です。同様の業務を行っている業者は多く競争入札をすべきです。作品の設置場所や作品の選択も住民参加による協議や公募（コンペ）で決めるべきです。公金を使う以上、作品制作の費用を公開できないものは採用してはいけません。

4 少なくとも実施時期を見直し予算は予備費に組み換えを。

「国際芸術祭」の実施は来年である必要はありません。ましてや、梅雨時の6月に開催するのは理解できません。他地域をかけたしている北川フラムさんの都合に合わせるのではなく、大町にとって何が必要で、それはいつが適切かという視点で考えるべきです。

私たちの提案

陳情署名を集めよう！

~3/14



第1回討論会 124名が参加！

2月19日(金)夜、大町公民館分室で開催した討論会は、国際芸術祭に反対する人、賛成する人、わからない人など様々な方々が集まり、白熱した議論になりました。

本会チラシ(2/14新聞折込)を見てくださったの方から電話・手紙・FAX・E-Mailをいただきました。ご協力に心より感謝申し上げます。

☺「生活苦しいのに…」

市内在住の芸術家と結婚された若い女性は「子どもの教育やここに住む芸術家のためにお金を使ってほしい。若い人の意見も反映してほしい」と切実なお話。

☺「大町市が恥ずかしいと思った」

子育て世代の男性(40歳代?)は新聞記事を片手に「同じ紙面に、大町市予算は国際芸術祭が、塩尻市は福祉・子育ての充実が見出しとなり、恥ずかしいと思った」と訴えました。

☒「二番煎じで芸がない」

「大町にはこんなに美しい自然があるのに」「他でやっているからなんて二番せんじみたいな事業は芸がない。もっと地につけたことを考えて」

☎「市外の芸術家は家賃タダなのはおかしい」

上一住宅にお住まいの方は「市営住宅が県に移管・改築されるのに伴い家賃が現在の2,700円から6年後には22,000円になるのに、市外から招く芸術家のためのアートインレジデンスでは家賃タダなのはおかしい。弱者のことを考えていない」



Facebook あります

第2回討論会

私たちの提言を説明し、意見交換します。
昼・夜どちらでも、誰でも参加できます。

明るい未来を語りあおう！

3月11日(金) 昼の部:15時~17時
サンアルプス1階 夜の部:19時~21時



歩く方舟／山口啓介



宇野のチヌ／淀川テクニック



勝者はいない／イオペット&ポンズ



Vertrek 「出航」／石井章



アラキー／荒木経惟



20 世紀の回想／禿鷹墳上

瀬戸内国際芸術祭の経済波及効果の誇大宣伝

「総来場者数 107 万人、経済波及効果 132 億円」は本当か？

大町市が「北アルプス国際芸術祭 信濃大町 食とアートの廻廊」を計画するにあたり、模倣事例である「瀬戸内国際芸術祭 2013」の主催者発表資料より、「総来場者 107 万人」「経済波及効果約 132 億円」といったデータを引用し、その経済波及効果の大きさを説明している。

瀬戸内国際芸術祭実行委員会「瀬戸内国際芸術祭 2013 総括報告書」(2013 年 12 月 13 日)によると、107 万人は 14 会場の合計数である。その注釈には、芸術祭のために来た人を「計測することは困難」であるとして、集落に設置した複数の基準施設の通過者の合計を来場者としたと説明している。たとえば、島の入り口である港に作品を設置してある場合、島に来た人は全て来場者にカウントされる。各会場来場者の最多は直島の 26 万人、次に小豆島の 19 万人で、最少は大島の 4 千人である。そのため、日本政策投資銀行・瀬戸内国際芸術祭実行委員会「「瀬戸内国際芸術祭 2013」開催に伴う経済波及効果」(同 12 月 9 日)は試算の前提を 30 万人にしている。

一方、香川県「平成 26 年香川県観光客動態調査報告」(2015 年 7 月)から小豆島エリアの観光客入込数を見ると約 100 万人余がコンスタントに来ている。これを、芸術祭の開催年の前後の年と比較すると(表)、その差は約 7 万人で、これが芸術祭による寄与であると推測でき

る。翌 2014 年は全県では観光入込数は大幅に増えているのに対して、小豆島エリアは減少していることについて、同報告は「国際芸術祭の反動」と分析している。

一方、長野県「平成 26 年観光地利用統計」(2015 年 7 月)によると、50 周年であった 2013 年の黒四ダムの観光客入込数は 99 万人で、翌 2014 年は 92 万人(−7 万人)に落ち込んでいる。瀬戸内国際芸術祭が地域に及ぼした経済波及効果は、大町市でいえば黒四ダム 50 周年の状況をイメージするとわかりやすいかもしれない。

7 万人の観光客がもたらす経済効果は少なくない。しかし、107 万人であれ、30 万人であれ、誇張であることに間違いはない。「瀬戸内国際芸術祭」の経済波及効果 132 億円の内実はその 3 分の 1 程度であると見るのが妥当であろう。主催者発表資料を丸のみして類似事業を企画するのは危険である。

表：小豆島エリアへの観光客入込数の推移(万人)

	小豆島エリア		県内主要観光地合計	
	人数	2013 年比	人数	2013 年比
2012 年	105.9	−6.7	472.3	+1.9
2013 年(開催年)	112.6	0.0	470.4	0.0
2014 年	105.3	−7.3	503.3	+32.9

香川県「平成 26 年香川県観光客動態調査報告」(2015.7)より作成

発行：大町の芸術祭を考える会(よびかけ人代表：渡辺純子) 事務局：大町市大町 3302(〒398-0002) Tel&Fax:0261-22-7601

寄せられた
ご意見
(表面の続き)

☒ 地方創生と言いながら事業を東京の業者に丸投げ。市民は 2 ヶ月にわたり無償ボランティアで協力しろなんて！ ☒ あらゆる仕事で市から見積・入札と言われるのに、この事業は特殊だから審査なしで丸投げですか？ ☒ 観光大使の活躍をもっと考えたらいいのに。 ☒ ある観光大使は、電話や切手代、電車、お茶代などの経費がかかるのに、無償ボランティアだと言っていましたか… ☒ 市の職員は通常の仕事で手一杯。全庁態勢で芸術祭というが、本来の仕事がおろそかになることが心配。